

5月の衛研検査情報

～トピックス～

平成23年度 食品中異物検査（昆虫類）のまとめ

医動物担当では、市民、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者等の依頼を受け、昆虫類を中心に食品に混入した異物について検査を行っています。平成23年度の食品中異物検査実績は、7検体でした。

主な結果 依頼された7検体のうち、昆虫類は4検体（チョウ目2検体、ハチ目1検体、ゴキブリ目1検体）で、その他の節足動物2検体、材料の一部1検体でした。

A群溶血性レンサ球菌のT型別について（病原体サーベイランスのまとめ）

A群溶血性レンサ球菌感染症は、五類感染症（劇症型溶血性レンサ球菌感染症は全数把握疾患、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は小児科定点把握疾患）の対象疾患であり、また病原体サーベイランスの対象となる疾患になっています。これら疾患の起因菌は、*Streptococcus pyogenes* であり、劇症型は手足の筋肉等の軟部組織に壊死性の炎症を伴う重篤な症状を呈します。咽頭炎は主に小児に多く見られ、その他に扁桃炎や猩紅熱、続発症として急性糸球体腎炎、リウマチ熱等を発症することがあります。

当所では、病原体サーベイランス事業として小児科定点から送付された咽頭炎症状患者の咽頭ぬぐい液からA群溶血性レンサ球菌の分離をおこない、分離された株についてその疫学的指標であるT型別をおこなっています。今回は2011年1月から12月までの1年間に分離されたA群溶血性レンサ球菌のT型別結果を報告します。

◇T型別とは、A群溶血性レンサ球菌の菌体表層に存在するT蛋白の血清型別のことで、疫学調査の手段として広く用いられています。

主な結果 2011年1月から12月に受付けた86検体から分離された株は計54株で、TB3264型、T1型、T12型、T28型の順で多く見られました。

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所WEBページは、感染症情報や保健情報、薬事情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。検査情報月報では、アクセス件数をもとに、どのような情報に関心が寄せられているかを解説しています。



主な結果 平成24年3月は、マイコプラズマ肺炎、ロタウイルスによる感染性胃腸炎に関するページのアクセスが多くみられ、総件数は135,392件でした。



詳しくは横浜市衛生研究所ホームページを御覧ください
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/inspection-inf/>



横浜市衛生研究所では、所内で行われた試験検査等の結果に解説を加えて、毎月、「検査情報月報」として報告しています。